

# 四谷の

# 千枚田だより



第 238 号

## 今年シカには往生する

自然豊かな環境を保つ「四谷の千枚田」も獣害に悩まされている。過去を辿ってみても、イノシシやサルは居るには居たが、田んぼに被害を及ぼすほどではなかったが現在では棚田の農家は獣害対策にあらの手この手で必死である。

筆者は二十代から銃による狩猟、現在も有害鳥獣駆除を目的に罠猟(箱わな・くくり罠)免許を取得、従事している。

また、新城市鳳来寺山自然科学博物館の学術委員(動物部門)を担当するなど、野生動物の動向、習性なども研究対象として情報収集などを行っている。

ここでは、約半世紀超の体験、経験を基に大胆に要約してみた。

まず、イノシシについては、平成十二年頃からイノブタ(イノシシと豚の交雑種)による農作物や土手の崩壊、家屋被害が年を追うごとに深刻な状況が続いた。

平成三十年、岐阜県の養豚場で豚熱【※】の発生が確認され、令和元年ごろから野生イノシシでも確認、拡大がみられた。この地方でも、令和三年頃にはイノシシによる農作物被害は極端に減少「おかげでタケノコが食べれたゾン」などの声が聞こえてきたりした。

【※】豚熱ウイルスにより起こる豚、



地に出没しだしたのは平成十七年頃で、僅か数年で旧鳳来町のほぼ全域に拡大してしまった。侵入当初は畑の法面の野草「やまそ」をバリカンで刈ったほどきれいに食べたり、ニホンカモシカの主食の「アオキ」の葉を食べる程度で顕著な被害は見られなかったが、年を追うごとに警戒になり、畑の作物も「人間様が食糧にわざわざ作ってくれたんだ」と、遠慮会釈なく食べ尽くすま

一方、ニホンシカがこの強い伝染力と高い致死率が特徴



でに学習してしまった。特に、今年には四谷の千枚田ではニホンシカの入らない(稲を食べられない)農家は、まず皆無と言つていいほどの被害が頻発している。(因みに我が家の田んぼも、酷いところは七十軒も食べられてしまつている「写真」)

六月三日、開催した「お田植感謝の夕べ」で千五百本のロウソクを灯し、天空に十五発の花火を打ち上げた。百姓は「これで、シカも逃げたかノン」と期待はしたものの、毎夜の出没は全く変わりなく、夜中にロケット花火で威嚇に出掛ける折々に数匹の群れに出くわすし、多い時には十数匹と顔を合わすことも珍しくない。

棚田の百姓は成すすべもなく「海



苔網やカラーテープを田んぼ回りに張り巡らしたり、電気柵を設置したり、銭金なしの自己防衛に躍起になっている。

それでも、少しの隙間を狙い、侵入し、被害を及ぼす。

今年から棚田の百姓として新規参入した伊藤さん(※)は、毎夜出没するシカの進入防止対策として、海苔網を頑丈に張った。ところが、七月六日早朝、その海苔網に雄シカの角が絡んだが、稲の被害は最小限に抑えることができた。

いろいろな所からの情報収集では、ニホンシカの田んぼへの侵入、稲を食べる等の被害は四谷の千枚田に限らず、広域な地域で一般的な被害が發出しているようで、彼(シカ)らは、どうやって連絡を取り合っているのか、もしかか：スマホ？でもなかるうがノン：など、毎朝の見回りに、個人対策では限界と、苦慮に堪えない話題ばかりである。



## 田の草取り

六月十六日、地元鳳来寺小学校五年生十一人は、四谷の千枚田に出かけ、草取りをしました。まずは、五月に植えた苗の成長にびっくり。草取りと言われても、どれを取ればいいのかわかりません。困っている、地域の先生が教えてくれました。「植えた列とは違うところに生えているのは草だから、取るんだよ。苗が大きくなって込み合ってきたところの苗も抜くんだよ。抜いた草についている土はよく落として、田んぼに戻すんだよ。草を取りながら、田んぼの土をよく混ぜてね。」

やるべきことがたくさんありました。子どもたちはグループに分かれて作業を行いました。作業が終わったあとの田んぼは、ずいぶんすっきりとしました。これからも順調に伸びてくれるといいですね。

鳳来寺小学校ホームページより



## 視察

六月十九日、日本三大カキツバタ自生地でもある刈谷市の「カキツバタを守る会(早川輝会長)三十四名が刈谷市市民活動部 文化観光課高



須主任主査引率で千枚田を訪れた。カキツバタは愛知県の花、そして刈谷市の花として親しまれており、市の最北部にある二万三千三百三十平方メートルの小堤西池は、京都・大田ノ沢、鳥取・岩美町の唐川と並ぶ日本三大カキツバタ自生地の一つで、昭和十三年には国の天然記念物に指定された。

昭和五十一年に地元の有志によって結成された「小堤西池のカキツバタを守る会」によって、必要最小限の除草などの保護活動が行われている。

花の見頃は五月の中旬から下旬で、小堤西池のカキツバタはできるだけ自然のままにしてあり、栽培したカキツバタと比べて株ごとに、花の色や大きさ、咲く時期にばらつきが生じる。また、肥料を与えないので、栽培したものに比べると背丈が低いことが特徴でもある。

今回の視察は、保全活動が顕著な「四谷の千枚田」の実態を会員の研修を兼ねて訪れたもので、お互いに保存継承の難儀さ、大変さ、それを乗り越えての達成感などを、お互いに語りあった。

## 生産活動

六月十七日、中山間地域等直接支払の生産活動事業の一環として農道・水路・周辺林地等の草刈り及び掃除活動を役員の指示に従い、四班に分かれ作業を実施した。

今回は、例年五月下旬にふれあい広場の草刈りを行っていたが、コロナ禍も下火になり、念願の「お田植感謝の夕べ」を実施することに至り、会場整備等でふれあい広場の環境整備(草刈り)まで手が回らなかった。その部分の草刈りを、役員の配慮で実施して頂いた。

また、六月二日にこの地方を襲った線状降水帯の豪雨で水源地付近に倒木が発し、その処理等を行った。他の班は周辺林地や水路、農道などの草刈りを実施した。

## 里地・里山の動植物

多様性に富んだ千枚田周辺は多くの動植物の宝庫でもある。今回は、珍しい・貴重な植物を啓蒙を兼ねて紹介する。

## 「ツチアケビ」

日本固有種・ラン科植物としても

腐生植物(菌従属栄養植物)で、光合成を行う葉を持たず、養分のすべてを共生菌に依存している。



初夏に花茎を地上に伸ばす。全体が黄色または濃いピンク色で、鱗片葉はほとんどみられない。あちこちに枝を出して複雑な花序となり、枝の先端に花を咲かせる。

果実は秋に成熟、楕円形、多肉質で、熟すると「アケビ」というよりも「ウインナーソーセージ」をぶら下げたような姿になる。

千枚田周辺では四か所の群生を確認しているが、一見、不気味な感じはするものの、愛嬌のある植物で、野に咲いてこそ、価値のあるものであり、窃盗(無断採取)など考えずに、観て楽しんでいただければと。...

「みんなが残そう千枚田の自然」① ササユリ ② ホウライジユリ ③ ツチアケビ ④ ナツエビネ

行 令和五年七月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二